

市報 やまぐち

2018

10/1

October
No.311



特集	農業維新	2
■	協働による「個性と安心の21地域づくり」	8
■	市政トピックス	10
■	財政の健全性を示す指標の算定結果公表	11
■	「亀山公園山頂広場」リニューアルオープン	12
■	県央連携都市圏域の情報を紹介「山口ゆめ回廊」	13
■	歴史発見！こねえな話、知っちゃる？	14

「みんながもうかる農業を目指して」 新しい農業への挑戦



山根さんととうもろこしのほ場（小鯖）

皆さんの「体」や「健康」。それを支える安全でおいしい食物の多くは、農家の皆さんの手で作られたものです。

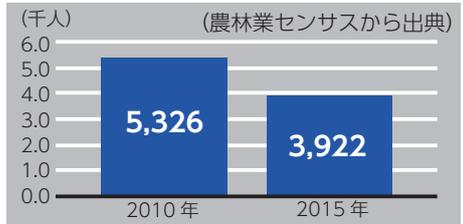
本市では、米はもちろんのこと、キャベツ、玉ねぎ、トマト、乳用牛や肉用牛など、さまざまな品目・品種が生産されています。

しかし、農業は担い手の高齢化や後継者不足という問題を抱えています。本市においても同様で、深刻な状況です。2015年の本市の農業経営体数は3922と5年前に比べて約25%減少しています。

今後、減少が続くと予測されるため、1人でも多くの担い手を確保し、将来にわたって農業を発展させ、地域を守っていくことが喫緊の課題となっています。

農業の担い手不足

山口市の農業経営体数



「農研機構～2025年の地域農業の姿が把握できる地域農業情報」によると、これから10年後には農家数はさらに減少すると予測されており、より作業効率の高い農業経営が求められる。



3 行政や機械メーカーが協力して行った収穫実演会。農林水産省や全国の農家が視察に訪れていた。



2 乾いた土地を好むため、保水力がなくなった耕作放棄地対策として注目されている。



1 種まきをした後は、収穫まで手がからないため、他の作物に時間をかけられる。

食の地域内循環に向けた とうもろこし栽培の実証実験



栽培・収穫

遊休地でとうもろこしの栽培と収穫

地域内で 資源が循環

堆肥の生成

とうもろこしの茎や牛糞を堆肥として農地に返す

家畜の餌

収穫したとうもろこしを牛の餌に

日本の農業をリードする

そんな中、新しい農業経営に目を向けたベテラン農業者がいます。(株)農園屋五葉の山根正之さんです。

山根さんは、鳴滝の麓の広大な農地が広がるその一角でとうもろこしを育てています。ここで作られているのは、牛や鶏といった家畜の餌となる飼料用のとうもろこしです。現在市内では、飼料用のとうもろこしは全て海外輸入に頼っています。しかし、食の安心・安全志向が高まる中、餌から地元産にしたいという畜産農家からの声や、手間暇のかからない生産活動をしたいという耕種農家からの声が高まり、市主導で両者のマッチングが行われました。耕種農家は、稲作に比べ圧倒的に手間が少なくてすみます。また、畜産農家は、地元の農家から仕入れた遺伝子組み換えをしていない飼料を家畜に与えられます。そして、私たち消費者は、餌から地元産という付加価値の高い安全な食材が手元に届くため、お互いにとってより良い関係が築けるのです。

約50㍏の農地は、農業するには決して大きな面積ではありません。しかし、新しい農業経営の可能性を秘めた大きな実験が始まっていました。



6 8月21日にはセミナーを行った。行政が主導するこの取り組みは、農林水産省や全国の農家から注目を集めている。



5 実家は畜の餌に、家畜の糞は農地の堆肥となる。畜産農家と耕種農家の連携により、餌から山口産の循環が生まれる。



4 その場で、収穫用の機械で飼料用の実とそれ以外に分別される。茎や葉はその場で畑にまかれ、堆肥として利用できる。

「いつだって先駆けはカッコいい」 将来を見据える若き就農者



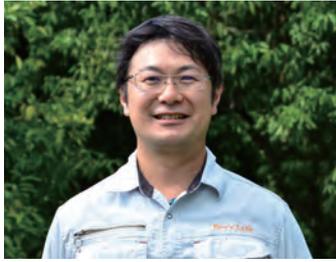
子どもたちが目指したくなる、将来の農業を支える頼もしい若者がいます。師匠や組合などにアドバイスをもらいながら、失敗や成功を繰り返しながらも、新しい農業の道を切り拓こうと頑張っている若手就農者にお話を聞きました。



農業センサスによると、平成27年度の農業経営体の全国平均年齢は66.4歳。山口県の平均年齢は70.3歳。山口市は69.7歳。30代40代でも若手といえる時代になっている。

はちみつ

ときし養蜂園 Bee's life 代表取締役
時津佳徳さん(39)



有機にこだわり抜いたはちみつの生産・販売を行っている。道の駅「仁保の郷」などで販売中。新規就農3年目。

幼い頃から祖父が養蜂をしてきたのを見て、養蜂へのあこがれがありました。祖父の知り合いに頼りになる先輩がおり、始めるのは難しくはなかったですが、生き物を扱う

野菜

YorozuFarm
徳万隆良(42)・絢香(39)さん



11年前に奥さんと共に本市に移住。自家製野菜を移動販売やレストランで提供している。新規就農3年目。

海外に行ってさまざまなものを見聞きしているうちに、食と健康にこだわった「人間らしい生活がしたい」と思うようになりました。そんなとき、祖母が山口市で農業を

トマト

西ノアームメント
西正倫さん(34)



7年前にトマト栽培を独学で始めた。甘くてジューシーなトマトが人気で海外輸出も考えている。新規就農7年目。

高校卒業後は九州で生活していました。たまたま農業に関する新聞記事を見て、トマトがもうかると知り、やってみようと思えました。私の作るトマトは糖度が高くて濃

ぶどう

510grapevineyard
五島豊さん(46)



平川と仁保でぶどうを栽培。道の駅やJAの「ぶちええ菜」で販売。一粒一粒大切に育てている。新規就農6年目。

サラリーマンを辞めてどうしようか迷っていたときに農業大学の「就農支援塾」を知り、そこで2年間ぶどうについて学びました。お店で見るぶどうの房を作るのに、も

「圧倒的なこだわりが自信につながっている」

ため苦労は多いです。蜂が蜜を吸う蜜源が近い山の開拓から、水の管理など、水や蜂が農薬で汚染されると蜂を死なせてしまうため、準備だけでも神経を使います。私の場合、一度使った巣枠は農薬で汚染されている恐れがあるため焼却し、二度と同じ物は使いません。そこまでオーガニックにこだわりの、蜂に愛情をかけているので、良質の蜜ができたときの喜びはひとしおです。私は、商売が軌道に乗るまでの忍耐と、これで生きていくんだという強い想いがなければ農家はできないと思っています。そして「ここまで徹底的にやった」という自信とそれをキャッチフレーズにできる営業力があれば、農家でうまくやっていると



蜜蜂の健康状態を確認する時津さん。素手で作業しても刺されないほど、時津さんの育てる蜂は優しく育っているという。

「人間らしい生活を。たどり着いたのが野菜農家だった」

やっていたのを思い出し、横浜でのサラリーマン生活を辞め、宮野で野菜農家を始めました。1年も経たない頃、今の子どもの達農家に対するイメージが悪く、職業として選択肢にないことを知り、自らがかつこよく輝いている農家になって「農家さんの価値を上げたい」と思うようになりました。それから、イベントに積極的に出店して自分たちの農家スタイルを知ってもらおうとともに、農家はかっこいい、農業は面白いというイメージの発信に努めています。また、自分が種から育てた野菜を自ら販売することで、お客様から生の評価やニーズを知ることができ、モチベーションの向上につながっています。



自宅野菜を育て、サラダ屋も構える。サラダのドレッシングもオリジナルにこだわっている。

「トマト栽培を独学で勉強。いつか海外で」

味が売りです。ほ場は砂地でさらさらしていて水がすぐに抜け、トマトに適した土壌です。親が営んでいた水稲の余った土地でとりあえず始めたのですが、今思うと適地適作だったなと思います。トマトは寒暖の差があるほどおいしいので冬の栽培がメイン。夏はもっぱら土作りですね。肥料にこだわっていて、魚粉を混ぜることで甘くしています。本を読んだり、肥料屋さん



トマトの収穫をする西さん。独学で始めたが、将来は海外でもトマトの栽培・販売をしたいという。

「ぶどうの産地仁保を守り続けたい」

のすぐく人の手が入っているのを知って「グンツ」って胸にきてぶどう農家を始めました。でも果樹は土地だけでなく施設があるので、始めるのは大変です。農大の方や県、市の方に土地を探してもらい、離農される方から仁保のほ場を譲り受けました。仁保はぶどうの産地なんです。現在JAのぶどう部会の皆さんと一緒に頑張っていますが、40代の自分は群を抜いて若い。今後も自身の生産技術を高め「仁保のぶどうの産地を守らないと」って思います。形が良く味のいいぶどうができたときはうれしいです。3月から休みが1日もない状況ですが、サラリーマン時代に比べてやりがいがあり、全然苦にならないですね。



出荷に向けてぶどうを収穫する五島さん。一粒一粒大切に育てている。

「作り手の顔が見えるから安心」 マルシェで「農」を感じる

食の安心・安全が叫ばれる昨今。傷が付いたり形が良くないものであったりしても、安心のためなら買いたいという消費者も増えていきます。そこで、毎月、地元産の新鮮野菜などが売られている「おいでマルシェ」を取材しました。

10月に入り、過ごしやすい季節を迎えると、市内の産地からは豊かな秋の実りの声が聞こえてきます。畑からは秋なすやカボチャ、山に行けば柿やシイタケ、そして、夏を経た果樹園からは梨やりんごのおいしい知らせが届き始めます。まさに食欲の秋を刺激する食材がめじろ押しです。

中央公園で、毎月第一日曜日に実施されている「おいでマルシェ」。11月で、スタートから3年が経ちます。一の坂川沿いの交通交流広場から始まり、お客さんが増えたため、ここ中央公園に移動してきて半年を迎える生産者直売イベントです。徳地でじねんじよを栽培する土井

志則さんが、全国のさまざまなマルシェをまわり、お客さんと出店者のあたたかい空気感や距離感に魅力を感じ、賛同してくれる生産者を募り、市と協議を重ねて「おいでマルシェ」のオープンにこぎ着けました。当初は、野菜を販売する店舗などの数店舗程度でしたが、今では10店舗を超え、種類も豊富になりました。

野菜をはじめ、果物、花、蜂蜜、卵、唐揚げ、米粉、手作りジュース、手作り雑貨、花の加工品のワークショップ、そしてなんとハンドマッサージまで、ジャンルはさまざま。魅力はなんと「言っても売り手と買い手お互いの顔が見えることではないでしょうか。お客さんの一人は「新鮮だから見た目にはこだわりません」。また、他のお客さんは「作った方の顔も人柄もわかるから安心して食べられます」と話していました。

間もなく3年目を迎える「おいでマルシェ」。食の安心や安全を考えるいい機会になるはずです。「おいでマルシェ」へおいでませ。



アップルマンゴーをあしらったかき氷。マルシェでは、こうした限定商品に出会える。





毎月第1日曜日は
YAC山中央公園
9:00~15:00
今回は、山口ゆめ花博
10月7日開催!!

10月のマルシェは
山口ゆめ花博会場
で開催されます。

- ①販売するだけでなく、食べ方なども紹介
- ②今が旬のりんごや混じりけなしのジュース
- ③車を利用したお店も数多く出店
- ④見ていて飽きないブローチなどの手作り雑貨
- ⑤プリザーブドフラワーを使ったハーバリウムのワークショップ
- ⑥少量だがハーブなどの苗も
- ⑦ハンドマッサージまである
- ⑧価格が高騰していたこともあり飛ぶように売れていた野菜

私たちが農家さんを支えます

地域と共に・・・JA山口中央

当JA管内でも、農業者の減少・高齢化による農業生産基盤の脆弱化が重要な課題となっており、新規就農者・定年帰農者・女性などさまざまな担い手の確保に向けた支援を行っています。また、担い手組織連絡協議会を通じた集落営農法人間の連携を強化し、農機の共同利用など総合的に支援する取り組みも行っています。JAでは出資型法人「(株)ベリーロード」を設立し、「いちご生産農場日本一」へ挑戦し、地域農業の永続的発展や若者の育成にも取り組んでいます。

今後も、消費者の信頼にこたえ、地元農畜産物を安定的に供給できる地域農業を確立するため、関係行政と連携し、売れるものづくりの提案、地産地消を基軸とした消費拡大に取組み、農業生産の拡大、農業者の所得増を最大目標として持続可能な農業の実現を目指していきます。

また、食育・農業体験、消費宣伝活動を通じて消費者の皆さんへ農業に対する理解を深めていただき、安心・安全な農畜産物の大切さをお伝えしていきます。新たな農業へ挑戦している農業者の応援をよろしくお願いいたします。



JA山口中央営農経済部
部長 金子隆

子ども達から選ばれる職業に

農業は私たちの生活の基盤を支える重要な産業です。しかし、生産者の高齢化、後継者不足という全国的な農業問題は、本市にも当てはまり、平均年齢69.7歳は全国平均よりも高い水準で推移しているのが現状です。

こうした状況から、本市では、将来子ども達に職業として選ばれるような持続可能な農業の確立に取り組むこととしています。具体的には、生産・流通・販売・消費の過程で、関係者全てがWIN-WINでつながるみんなが「もうかる農業」の実現を目指し、さまざまな取り組みを展開しています。

市内生産者の皆さんは、消費者の皆さんに「より質の高い農産物をお届けし、喜んでいただきたい」という想いをもって、日々農業生産に精進されておられます。市民の皆さんも、どうか、本市の農業をこれからも応援いただき、ぜひみんなで「山口市産農産物」を選んで食べていただけたらと思います。



農林政策課6次産業推進室
室長 安村崇

協働による「個性と安心の21地域づくり」

安心と暮らしの機能構築と拠点づくりとネットワーク形成

問協働推進課 ☎083・934・2965



市では、全ての地域の個性が際立ち、あらゆる世代が将来にわたって安心して住み続けることができるコミュニティを目指し、市内21地域の個性と安心を共に創る地域づくりの取り組みを、協働によるまちづくりのもとで進めています。そして、この取り組みを実現するため、地域づくり協議会の体制強化の支援、地域交流センターの整備・機能強化等を順次行っているところです。

東日本大震災や熊本地震にみられるように、大規模災害時等でも、地域コミュニティが果たす役割は、ますます重要になっています。その拠点となる地域交流センターについて、平成17年の合併以降、上図のように施設整備を進めてきました。現在は、小郡、佐山、秋穂二島、鑄銭司の各地域交流センターの造成、建設工事に着手しています。

市では、今後も、人口減少・高齢化社会に対応した地域づくりに向け、また、21地域それぞれの個性を生かした魅力ある地域づくりの輪が広がるよう、地域の生活を支える拠点づくりに取り組んでいきます。

未来への期待が膨らむ 人と人が交わる場所へ

小郡地域交流センター建設中

市内では最も古い昭和 48 年度に建設された小郡地域交流センター。老朽化による建て替えのため、総合支所に隣接して建設することになりました。

整備スケジュールや配置計画、新たな地域交流センターに込める地域の方の思いを紹介します。

整備スケジュールと配置計画図

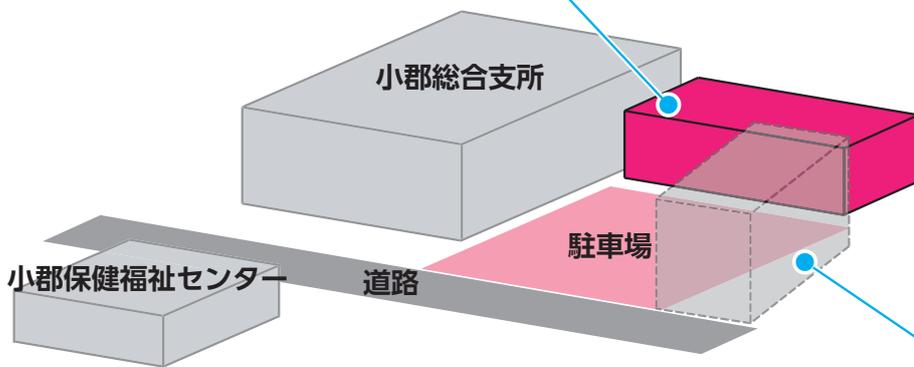
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
建設委員会	要望	検討会議				
建設工事		詳細設計		工事	供用開始 (予定)	
その他工事					旧施設解体・駐車場等整備 (予定)	

現在、小郡総合支所横で新設工事を進めており、平成 31 年春の供用開始を予定しています。建設工事が完了した後は、旧施設を解体し、駐車場整備を行う計画です。駐車場も含めた工期は、平成 32 年度までを見込んでいます。

【建設中】小郡地域交流センター



新たな小郡地域交流センターの外観イメージ



【現】小郡地域交流センター (H31 年度以降解体予定)

「誰もが使いやすい、地域のコミュニケーションを育む場へ」



小郡地域交流センター
建設委員会 委員長
井上 素彦 さん

旧公民館は、生涯学習の場として利用者が偏りがちな施設であったのに対し、地域交流センターは広く門戸を開放し、地域に貢献したい人なら誰でも使える場であると、私は考えます。そうした観点から、今ある基本的な機能は残しつつも、老若男女を問わず使いやすい、交流を生む空間となるよう、建設委員会で議論を重ねてきました。新たな施設には、豪華さや娯楽を求めるのではなく、地域のコミュニケーショ

ンを育む集いの場となって欲しいという思いが込められています。

小郡のまちは今、成長の途上です。私はこの地が以前より良くなっていると感じますし、山口県の玄関として、ますます良くなっていてもらいたい、小郡にはその力があると思っています。そのためにも、(小郡の) 未来を期待する、地域の皆さんの雰囲気づくりが大切です。新たな地域交流センターが、その助けとなることを願っています。



コロガル公園コモンズの入場者数が1万人に到達

8月13日、山口情報芸術センター「YCAM」が行うコロガル公園コモンズの入場者数が、開場から24日で1万人に到達しました。



1万人目となったのは、兵庫県加古川市にお住まいの逢坂莉世さん（小学2年）で、夏休みを利用して祖父母の家がある本市にいられており、この日は5回目の来場でした。記念品として、YCAMオリジナルのバッグ等を受け取られました。逢坂さんは、「迷路が楽しい。今日は追いかけてみたい。また来たい」と話していました。

コロガル公園コモンズは、音や映像などのメディアが埋め込まれた環境で遊びながら学び、創造力を育む公園で、コロガル公園シリーズの6作目となります。10月28日まで（火曜を除く）開催中です。

山口情報芸術センター ☎083・901・2222

三陽工業オフィス設置に関する協定書の調印

三陽工業株式会社（本社明石市）が山口市小郡に人材派遣の拠点となるオフィスの設置を決定され、8月27日、同社と本市の間でオフィス設置に関する協定書の調印をしました。

本市では、小郡都市核を県ナンバーワンのビジネス街へと発展させるため、今年度、小郡都市核においてオフィス等を設置する企業に対する支援制度「小郡都市核オフィス等立地促進補助金」を創設しており、今回が、補助金交付の第1号となります。

井上直之社長は、「求職活動の分かりやすさや利便性を重視して、新山口駅近くに拠点を設置することを決めた」と述べられました。今後1年間で70人から100人程度の雇用を目標にされています。

調印にあたり、市長は、「すばらしい発想で人材育成をされている三陽工業株式会社様が補助金交付の第1号となっていただいてありがた



い。今後の企業進出、ビジネス人材の雇用等による産業交流拠点化へ向けた出発点となった」と挨拶しました。

産業立地推進課 ☎083・934・2813

山口南ロータリークラブからベンチ寄贈

社会奉仕プロジェクトの一環として、8月29日、山口南ロータリークラブからやまぐちリフレッシュパークへ4台のベンチを寄贈いただきました。

寄贈をいただいた堀本紀代会長は、「ベンチを設置することで市民の方々が集い、語らい、交流の輪が広がっていくことを願っている。今後も地域や市民の方に必要とされている活動を行ってきたい」と述べられました。



お礼に感謝状を渡した市長は、「寄贈していただいたベンチを設置し利用向上に努めさせていただきます。これから秋のスポーツシーズンなので利用者の方には喜んでいただけると思う」と述べました。

寄贈された4台のベンチは、やまぐちリフレッシュパークのテニスコートに設置されています。

スポーツ交流課 ☎083・934

山口市観光周遊バスが運行を開始

明治維新150年記念事業として実施する山口市観光周遊バスが、9月1日、運行を開始しました。8時30分に出発する観光周遊バス第1便では、出発点の湯田温泉バス停に、市長、防長交通株式会社松村喜裕社長等の関係者が集まり、乗客約20人に記念品をお渡しして、お見送りをしました。



山口市観光周遊バスは、「山口ゆめ花博」の来場者に、湯田温泉や大内文化ゾーンも楽しんでいただく掛けとして、また、「新たなひとの流れをつくる」という目的のもと、本市の観光の質を高める出発点としたいと考えています。

第1便の出発に際して、市長は、「ぜひ、多くの観光客の皆さんにこの山口市観光周遊バスを利用していただき、本市が誇る大内文化の薫る名所を楽しんでいただきたい」と述べました。

観光交流課 ☎083・934・2810

平成 29 年度決算に基づく

財政の健全性を示す指標の算定結果を公表します

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定により算定した
4つの「健全化判断比率」と「資金不足比率」を公表します。

☎ 財政課 ☎ 083-934-2750

健全化判断比率

実質赤字比率

財政規模に対する一般会計等の赤字の割合です。山口市の一般会計等は、一般会計のほか、地域下水道特別会計、特別林野特別会計の合計です。この比率が大きいほど財政運営は厳しい状態です。

山口市の状況は？

収支決算は黒字（約 8 億円）です。

早期健全化基準 11.33 %
財政再生基準 20.00 %

— 赤字額は
ありません

連結実質赤字比率

財政規模に対する全会計の赤字の割合です。全会計とは、一般会計等や水道事業、下水道事業など全事業の合計です。この比率が大きいほど財政運営は厳しい状態です。

山口市の状況は？

収支決算は黒字（約 61 億円）です。

早期健全化基準 16.33 %
財政再生基準 30.00 %

— 赤字額は
ありません

実質公債費比率

財政規模に対する1年間で支払った借入金返済額などの割合で、3カ年の平均で比率を算出します。この比率が大きいほど資金繰りが厳しい状態です。

山口市の状況は？

比率の数値は良好です。

早期健全化基準 25.0 %
財政再生基準 35.0 %

4.4%

将来負担比率

財政規模に対して将来市が支払う借入金返済額などの割合です。この比率が大きいほど将来の市の財政を圧迫することが見込まれます。

山口市の状況は？

比率の数値は良好です。

早期健全化基準 350.0 %

22.5%

資金不足比率

資金不足比率

事業収入を基に、独立採算を原則として経営する公営企業※について、資金不足額と収益とを比較して指標化したものです。

山口市の状況は？

資金不足はありません。

経営健全化基準 20.00 %

— 資金不足は
ありません

早期健全化基準

財政の悪化が警告段階であることを示す基準

4つの健全化判断比率の指標のうち、1つでもこの基準以上となった場合、「財政健全化計画」の策定が義務づけられ、自主的かつ計画的に財政の早期健全化を進めることとなります。

財政再生基準

財政が破綻状態であることを示す基準

将来負担比率を除く3つの健全化判断比率の指標のうち、さらに状況が悪化して、1つでもこの基準以上となった場合、「財政再生計画」の策定が義務づけられ、国の監督を受けながら財政の再生に取り組むこととなります。

経営健全化基準

早期に経営健全を図る必要があることを示す基準

資金不足比率が、経営健全化基準以上となった場合、「経営健全化計画」の策定が義務づけられ、自主的かつ計画的に経営健全化を進めることとなります。

※公営企業…水道事業、公共下水道事業、農業集落排水事業、漁業集落排水事業、国民宿舎事業、簡易水道事業をいいます。

指標の結果から見えること

本市はすべての指標において基準を下回っており、財政の健全性が保たれています。

今後も分析を継続しながら、安定した財政運営に努めていきます。

●ウェブサイトでも今回の公表内容や、過去の公表などをご確認いただけます。

山口市 財政

検索

亀山

おすすめポイント

明治維新150年を記念して、幕末の長州藩主・毛利敬親像が建つ、亀山公園山頂広場が、園路、東屋、トイレ等の大規模な整備を終え、9月22日(土)にリニューアルオープンしました。整備計画を作成するにあたっては、ワークショップを開催するなど、市民の皆さんのご意見もいただくことで、より快適で、開放的な広場として生まれ変わりました。

明治維新の策源地が一望できる癒し空間

リニューアルオープン

亀山公園山頂広場

県立美術館側

問 都市整備課
083-9334
2832



狐をモチーフにデザインしたバス停が目印

①水景

かつて、山頂広場にあった池を再生し、水景の空間が復活。



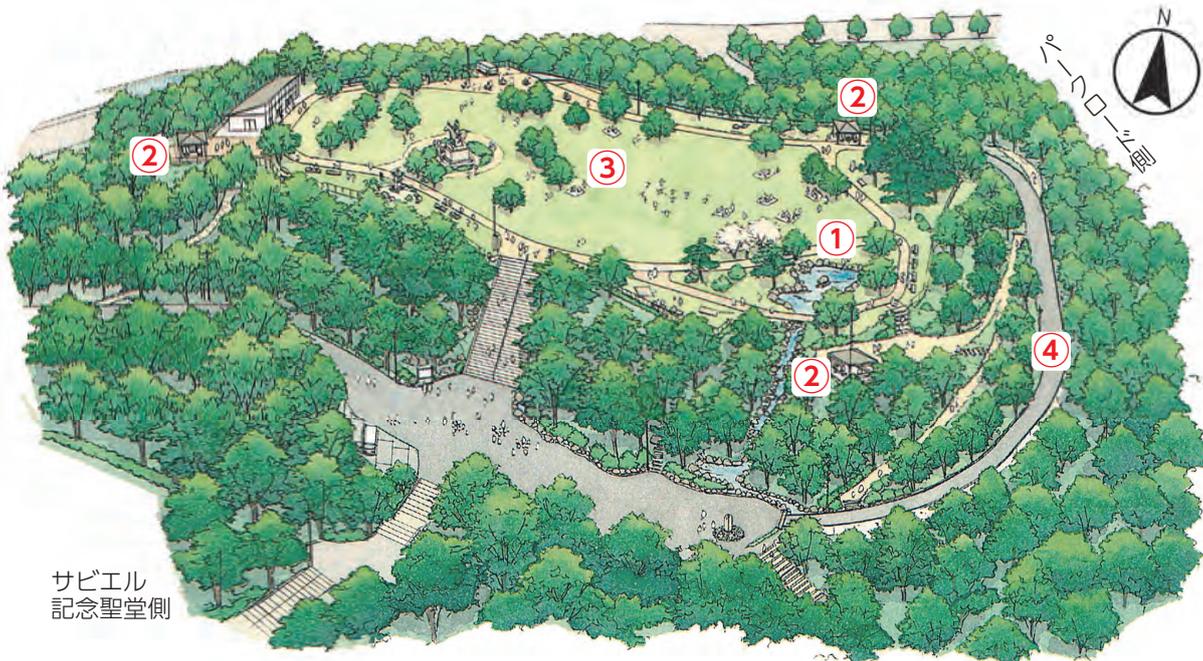
②眺望スポット

中心市街地の眺望を楽しめるように、樹木の適切な剪定、伐採を行い、案内板やベンチ、東屋を設置。

▼北方面の景色



▼東方面の景色



サビエル記念聖堂側

③山頂芝生広場

小さく区切られていた広場が、面積約3,500㎡のオープンスペースになり、イベント等を開催しやすくなりました。のびのび遊び、ゆっくり休める一体的な芝生広場です。



④通行しやすい園路

車いすやベビーカーでも通行しやすい園路を設置。パークロード側の登り口には、新たな遊歩道を設置。

花の名所

みなさんに楽しんでいただける花木を植樹します。

9・10・11月 土日祝

山口市観光周遊バス

1日乗車券 終日乗り降り自由

大人	小人 (小学生以下)	1歳以上 6歳未満	1歳未満
500円	250円	旅客が同伴する場合 1人目は無料 2人目から小人運賃	無料

8時30分～16時50分 1日8便 周遊運行

市内の観光スポットを巡るバスが、3カ月間限定で運行します。亀山公園山頂広場へは、県立美術館前のバス停で降りると、歩いて約5分で行くことができます。

周遊ルート ①から⑦のどのバス停からも乗車できます

①湯田温泉②美術館前③山口市菜香亭前④香山公園五重塔前⑤雪舟庭前⑥八坂神社前⑦西京橋⑧湯田温泉

問 防長交通山口営業所 ☎ 083-922-2555



山口ゆめ回廊

美祢市

萩市

津和野町

山陽小野田市

宇部市

山口市

防府市

山口県央連携都市圏域では、各地で多彩なイベントが開催されます。少し足を延ばしてみませんか。ウェブサイトでは、さらに多くの圏域情報を毎月発信しています。



美祢 未来維新光響ファンタジー

特別天然記念物秋芳洞周辺でプロジェクションマッピングを初開催。秋芳洞内も期間中はカラーLEDで彩られ、幻想的な世界を創り出します。

日時 10月26日(金)～11月4日(日) 17時～20時

場所 秋芳洞入口周辺(美祢市秋芳町秋吉)

料金 前売券:大人(高校生以上)1,200円、中学生950円、小学生600円、未就学園児無料

問 秋吉台地域イベント実行委員会 ☎ 0837-52-1532

萩 萩・食の祭典

優れた萩の食材や料理を市内飲食店等とともに広く発信します。

【萩食祭レストラン】 県内高校生と考えた萩の食材を使った特別メニューを、市内の飲食店約10店舗で提供します。

期間 10月20日(土)～11月11日(日)

場所 萩市内飲食店約10店舗

問 萩市企画政策課 ☎ 0838-25-3102 <https://www.city.hagi.lg.jp/site/meijiishin150/>

津和野 光る繭の展示&絹糸繰り体験

津和野町では、漢方生薬でもある「冬虫夏草」の健康効果に着目し、養蚕を応用した特許技術で冬虫夏草を培養生産しています。期間中は、冬虫夏草のほか、光る繭の展示や絹糸繰り体験も実施の予定です。

日時 10月28日(日)まで、9時～16時30分

場所 旧畑迫病院(津和野町邑輝829-1)

料金 一般200円、中高生150円、小学生100円

問 津和野町旧畑迫病院 ☎ 0856-72-0338

山陽小野田 お祝い夢花火

今年は、「未来～今を笑って、夢を描く～」をスローガンに開催。結婚、長寿、就職、入学などのお祝いメッセージをのせて、夜空に花火を打ち上げます。

日時 10月27日(土) 18時～21時(18時から、オープニングセレモニー) ※雨天時は28日(日)に順延

場所 殖生漁港(山陽小野田市大字殖生698)

問 山陽商工会議所 ☎ 0836-73-2525

宇部 第28回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)応募作品展

世界各国のアーティストから寄せられた野外彫刻のための作品プランをすべて公開する展覧会です。この中から選考された15点が、来年秋に約10倍の野外彫刻になって、UBEビエンナーレ彫刻の丘に展示されます。

日時 10月1日(月)～11月4日(日) 10時～17時(火曜休館)

場所 ときわ湖水ホール(宇部市大字沖宇部254)

料金 無料
問 宇部市UBEビエンナーレ推進課 ☎ 0836-51-7282

防府 愛情防府フリーマーケット

西日本最大級の路上フリーマーケットで、毎年10万人を超える大勢の人出で賑わいます。今年は、192店舗のフリーマーケットの出店があるほか、駅前の特設ステージをはじめとする会場の各所で、趣向を凝らした催しが開催されます。

日時 10月20日(土) 9時30分～15時30分

場所 JR防府駅周辺～防府市中心商店街路上～防府天満宮

問 まちづくり防府 ☎ 0835-22-4930

会場内の至る所に花が植えられており、どこを歩いても花の景観を楽しむことができる。



問 広報広聴課 ☎ 083-934-2753

夏は暑さも和らぎ、お散歩が気持ちよい季節になりました。ご家族やご友人と、山口ゆめ花博で、花々に囲まれた特別な時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

花の谷ゾーンには、国際園芸博覧会2016で金賞・銀賞を受賞したオリジナルのユリなど1000万の山口の花が咲き誇り、見る人の心をひきつけます。

表紙の写真 「山口ゆめ花博」開催中

今月の表紙は、山口ゆめ花博の花の谷ゾーンで、シャボン玉で遊ぶ親子連れの様子です。

今年の夏は猛暑日が続き、「開幕時に花が咲き揃わないのでは」という心配の声もありましたが、みなさんが真心込めて植え、育てた苗は、しっかりと期待にこたえてくれました。会場に入ると、見頃となった魅力的な花々がわたしたちを迎えてくれます。

「奇兵隊および諸隊ゆかりの地を訪ねて」

その式

岡 広報広聴課 ☎08399342753

皆さん、こんにちは。松前了嗣でございます。今回は、山口市内にございます、奇兵隊ゆかりの地と諸隊についてのお話をさせていただきますでしたが、今回はその続きであります。

奇兵隊の移陣

文久3年（1863）9月、下関から秋穂二島へ移陣した奇兵隊は、その後は京都から長州藩へと身を投じた



松前了嗣

まつまえ・りょうじ

やまぐち秋往還語り部の会、山口市文化財保護指導員。講演や執筆活動にも積極的に取り組んでいる。写真は法華寺（徳地・堀）にて往時に思いをはせる松前さん。



徳地の法華寺から眺めた風景。ここには第三銃隊がおったんです。向かって右手の三田尻方面から敵が来た場合でもここからならようわかりますね。

七卿の警護のため、防府市の三田尻へ移ります。そして、元治元年（1864）10月20日には、膺懲隊とともに徳地へと入りました。この年、禁門の変で御所に向かって砲撃した長州藩に対し、幕府は諸藩に長州征討令を発しました。この時、長州藩では、幕府に対し謝罪恭順の姿勢を示そうという保守派が実権を握っていましたが、奇兵隊や膺懲隊は、幕府に対抗する構えでありました。



奇兵隊・膺懲隊が陣を置いた正慶院。ここには山県有朋を訪ねて高杉晋作もやって来たんですいね。

天然の要塞、徳地

佐波川と島地川が流れる徳地の町は、まさに天然の要塞です。彼らは、正慶院を本陣とし、妙楽寺（廃寺）、多念寺（廃寺）、澄月院（廃寺）、金徳寺（現・法華寺）、妙蓮寺（現・雲相寺）、宗徳寺（廃寺）、正福寺（現・



正慶院から眺めた風景。奇兵隊日記には、ある隊士が、多念寺境内の池に泳ぐ鯉を5・6匹捕え、それを食べてしまったため、注意を受けたことが記されちよります。きつとお腹が空いちよったんでしょうねえ。

昌福寺)に分宿しました。この時から、それまでは静かな山間の町の雰囲気も、にわかには緊迫し慌ただしくなったのではないのでしょうか。

脱隊騒動

明治2年（1869）、戊辰戦争が終わり、奇兵隊をはじめとする約5千人の隊士が、郷里へと凱旋して来ました。そして、この年の11月27日、今まで費やした膨大な戦費により、財政が逼迫していた藩政府は、隊士の中から2250人を精選し常備軍を編成。その他の隊士は解散させるといった兵制改革に着手したのでした。これに不服を唱えた隊士ら、いわゆる脱隊兵たちは、諸隊幹部の不正を衝いた弾劾書や、賞典、給与等に対する要求を記した嘆願書を、藩政



イベントカレンダー

10/1 (月) ~ 31 (水)

山口お宝展

所 県立山口図書館、県文書館、市歴史民俗資料館、十朋亭維新館、中原中也記念館
関 実行委員会
☎ 083-925-2300

10/7 (日)

アートふる山口

所 一の坂川~堅小路・大殿大路周辺
関 実行委員会
☎ 083-920-9220



湯田温泉酒まつり

所 井上公園周辺
関 実行委員会
☎ 050-5309-3503



岩戸神楽

所 熊野神社
関 岩戸の舞保存会
☎ 083-972-6333

10/12 (金)

新山口駅バックヤードツアー

所 新山口駅
関 観光交流課
☎ 083-934-2810

10/13 (土)

ワンダフルライフ in ヤマグチ

市内外から『衣・食・住+遊』に関わる出店者を迎え、人もペットも暮らしやすいまちをテーマに開催するイベントです。(屋外はペット同伴可)

所 山口市菜香亭
関 定住促進課
☎ 083-934-4646

10/14 (日) 21 (日) 28 (日)

山口ゆらめき回廊

所 香山公園
関 大路ロビー
☎ 083-920-9220



10/20 (土)

やまぐち歴史講座~伊藤博文~

所 山口情報芸術センター [YCAM]
関 文化財保護課
☎ 083-920-4111

10/21 (日) ~ 22 (月)

中也忌

所 関 中原中也記念館
☎ 083-932-6430

10/27 (土) ~ 12/2 (日)

紅葉日和

所 関 重源の郷
☎ 0835-52-1250

11/1 (木) ~ 3 (土・祝)

阿知須文化祭

所 関 阿知須地域交流センター
☎ 0836-65-2022

開催中のイベント

10/28 (日) まで

コロガル公園 commons メディアアートの輪廻転生

所 関 山口情報芸術センター [YCAM] ☎ 083-901-2222



11/4 (日) まで

山口ゆめ花博

所 山口きらら博記念公園
関 山口ゆめ花博推進室
☎ 083-934-2924

やまぐちの秋模様

風に揺れる花博会場の花々に、秋の深まりを感じる季節となりました。さて、明治維新150年の中核イベントでもあります、「山口ゆめ花博」の開幕から約半月が過ぎました。本市では、花博の開催を契機に、明治維新150年の節目にふさわしい施設の整備やイベント等を実施しています。

このうち、大内文化ゾーン一帯を明治150年記念公園とするコンセプトのもと、9月22日に「亀山公園山頂広場」をリニューアルオープンし、同じく29日には、本市の幕末・明治維新を学べる施設「十朋亭維新館」をオープンしました。

また、9月1日から運行を開始していきま
す「山口市
観光周遊バス」
を利用して
いただくこと
により、大内
文化ゾーン
だけでなく、
湯田温泉から
中心市街地に
至るまでの
エリア全体の
回遊がしやす
くなり、花博
の来場者にも
本市の一体感
ある賑わいや
魅力を感じて
いただけるもの
と思っています。
市民の皆さん
も、行楽の秋に
、こうした新
しい風を感じ
ながら、本市
の魅力を再発
見してみませ
んか。



山口市長

渡辺純心

